

練習問題集

楽譜点訳の会「星」

楽譜点訳グループ「アダージョ」の規則は赤色、
視覚障がい者と点訳者のための音楽ソフト「ビースコア」の入力方法は緑色
で付記

改訂履歴

日付	ページ 番号	印刷用ページ番号 (表紙等も含む)	内容
2020.9.5	全		初版
2020.9.9	8	12	曲想用語のカッコの点字変更を追記。
2020.9.15	10	14	No.31d 説明文変更。
2020.9.16	17	21	No.43e 枠範囲訂正
2020.9.18	10	14	No.30 f 線上のフェルマータのビースコアでの 入力方法説明追記
	15	19	No.41 Fine の前の複縦線・終止線も記載通り にする
	17	21	No.43 c,d 直前の小節を繰り返し×3 → 直前の小節を3回繰り返しに修正
	17	21	No.43 h cr.+丸々コピーは不可。説明訂正
	20,22	24,26	No.46 N 小節戻って繰り返し → N 小節戻って丸々コピー(臨時記号がある ので)
	23	27	14.和音 和音の方向を明記
	24	28	No.49 b 和音が上からの場合の説明追記
	25	29	No.51 e 第2声のシャープは既出なので5の 点bは「不要」に訂正
2020.9.29	7	11	No.27 c 集合音符マーク追記
	23	27	No.48 e 2 小節目 スラー×2→スラー×1
	28	32	年号 1729～1802 の書き方訂正
2020.10.5	17	21	No.43 h 集合音符マーク追記
2020.10.6	19	23	No.45 小節番号の説明、小節番号修正
2020.10.7	2	5	No.7 非表示の参照ページ修正
	全		改訂日付の書き方統一
2020.10.9	23	27	注意書き変更
2020.10.12	24	28	No.49 注意書き変更
2020.12.12	7	11	No.25c 16 分音符 5 連符→8 分音符
2021.7.27	8	12	No.28e ヨ 3 の点の次の音符は音列が必要
	11	15	No.32e トリル連続追記
	22	26	繰り返しの口追記
	24	28	No.49 a 8 度連続の臨時記号は書けるよ うになった(V4.90)
2021.9.7	14	18	No.49 a 8 度連続の臨時記号は書けるよ うになった(V4.90)
2022.7.29	2,5,7,8, 10,12,15, 16,24,30	6,9,11,12, 14,16,19, 20,28,34	V4.96 に伴う変更その他
2022.12.28	14	18	No.40d ~マークの削除

目次

1. 基礎音記号、音符と休符	1
2. 音列記号、小節に関する記号（小節線・複従線・終止線）	2
3. 拍子記号・変化記号・調子記号	3
4. スラーとタイ	4
5. 16分音符以下の細かい音符・休符、分別記号	5
6. 集合音符	6
7. 連符	7
8. 速度・強弱と発想に関する標語と記号	7
練習問題	9
9. 奏法に関する記号	10
10. 装飾音、異形音符	10
11. 分割音符とトレモロ	12
12. 五線譜表における繰り返し及び省略法	13
練習問題	15
13. 点字楽譜としての繰り返し及び省略法	16
練習問題	20
14. 和音	23
15. その他の諸記号	26
16. タイトル、作曲者名、曲想、速度記号等の書き方	27
17. ピアノ譜の書き方	29

各項目に続けてカッコ内に記載したページは、日本点字図書館編「楽譜点訳の基礎」（改訂第4版）の該当するページを表す。

※のページ番号は、B'Score プロジェクト著「改訂版
点字楽譜の作り方」の該当ページ。

※P.77~94

1. 基礎音記号、音符と休符 (P. 5~P. 7)

ビースコアの表示では旗のつなげ方(連桁)はこの通りにならない。拍が合っていればOK.



No. 5

No. 6

No. 7

2小節休み、3小節休みのとき、全休符の間の小節線は非出力に。P6.1 参照

注) 2小節休みは全休符2つ ::: 、3小節休みは全休符3つ ::: 。ベースコアでは未サポートなので、全休符の間に小節線を入れ、その小節線を選択して Shift+O を押し「非出力点字(点字印刷/BSE ファイルに出力しない点字)」に設定する。4小節以上の休みは、※P.124 「小節のくりかえし」ダイアログの一番下「A小節休む」を選び、A欄に小節数を入力する。

2. 音列記号、小節に関する記号(小節線・複縦線・終止線)

(P. 12~P. 16)

※P.92~94

a

No. 8

b


No.9 

No.10



3. 拍子記号(P. 11~P. 12)・変化記号(P. 16)・調子記号(P. 17~P. 19)

※P.84~91, 167~169

No.11 a 

b 

c 

d 

No.12 



No.13

4. スラーとタイ (P. 24~P. 25)

※P.179~185

アダージョでは、原則として2重でないところは通常スラーを使用する。

また、「5つ」でなく「4つ」以上の音符にかかるスラーは、スラー開始・終了を使う。

a

No.14

b

c

No.15

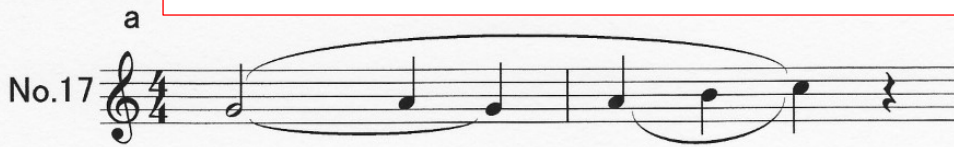
a

b

No.16

c

2重スラーは外側をフレーズスラー、内側を通常スラーにする。



フレーズスラーの開始ダイアログの、「終了開始」ボタンを押す

5. 16分音符以下の細かい音符・休符(P. 5~P. 6)、分別記号(P. 8)、集合音符

※P112~114,P158~160



3/8 拍子なので不可



長 (分別記号)



後が8分なので不可

短 (分別記号) P158

集合音符すべき音符

集合音符にしてはいけない音符

6. 集合音符(P. 25)、分別記号

※P112~124, P158

No.22 a

b

c

No.23 a

b

c

No.24

長 (分別記号) P158

必須ではないが、集合と読み間違えないように、入れると親切

繰り返しの記号にするべきところ

非翻訳点字、非出力点字について

ビースコアでは、「音符表示ができず、点字の下に赤線が引かれている。」状態を「翻訳できない」状態と言っています。

翻訳できないところは、毎回、エラーメッセージがでできます。「今後翻訳エラーを非表示にしますか？」とメッセージがでて、「はい」を押すとメッセージは出なくなりますが、表示は変わりません。ビースコアはまだまだ、完璧に点字を五線譜に表示するには力不足で、未サポートの記号や、未サポートの点訳規則があります。

点訳者は未サポートの点字を書きたいが、書くと翻訳できなくなるときは、その点字を入力してから「非翻訳点字」に指定します。

また逆に、点訳の規則からはこの点字を入れないが、入れないと翻訳できないときは、その点字を入力してから「非出力点字」に指定します。

非翻訳点字にするには、

対象の点字をマウスでドラッグして反転させ、**Shift+N** キー、またはマウス右ボタンを押してポップアップメニューで非翻訳点字指定・解除を選ぶ。

非翻訳点字は赤く表示される。点字印刷したときにはこの点字は出力される。五線譜表示には反映されない。

非出力点字にするには、

対象の点字をマウスでドラッグして反転させ、**Shift+O** キー、またはマウス右ボタンを押してポップアップメニューで非出力点字指定・解除を選ぶ。

非出力点字は緑色に表示される。点字印刷したときにはこの点字は削除されて左に詰められる。五線譜表示には反映される。

設定を解除したいときは、どちらも再度同じ操作をしてください。

以後、「非T」はその点字を非翻訳点字に指定するという意味、「非O」はその点字を非出力点字にするという意味です。

非翻訳点字指定例：

非出力点字指定例：

7. 連符 (P. 9)

※P142~144

「6以上の分子の拍子」
 3の倍数のときは3で割った拍数が基本単位
 12/8のとき→12/3=4 4拍子

No.25

a

b

c

8分音符なので集合にできない

d

8. 速度 (P. 28) ・ 強弱と発想に関する標語と記号 (P. 30)

※P189~192, P133~141, P125~130

No.26

$\text{♩} = 50$

a

b

c

レ下がり (P16) でもよい

終了を省略する

順序に注意。逆でも翻訳できてしまう

No.28

用語 accel. と強弱記号 f の順序 : アダージョでは原本順。
 上記では f accel. の順。

c

cresc. cresc. cre. はすべて、
 cr. と書く

P.126 では、曲想用語のカッコは :: としているが
 世界標準に合わせ、 : に変更した。
 V4 以降のピースコア、アダージョは
 世界標準に合わせる。

d

点線の開始終了 :
 ピースコアは未サポート。開始の2つ目の : と、点線の終了 : を非 T に指定する。

e

:cr::
 記号開始+記号+3 の点 2 個 (継続の点線を表す)

: の次の音符は
 音列が必要

: 点線の終了
 記号開始+3 の点

f

:poco rit::

:

非 T

練習問題



No.29 *espressivo*

pp *p* *p* *rit.*

e dim. *pp*

rit. *e* *dim.*

非T

音符上、音符間のフェルマータは、後記号→フェルマータ 、
 線上のフェルマータは、楽譜記号→リピート記号  に分類しています。

2020. 9. 15 No. 31d 説明変更
 2020. 9. 18 No. 30 説明追加
 2022. 7. 29 No. 39f 表示修正済

9. 奏法に関する記号 (P. 33) ※P161~167, P176~179

No.30

線上のフェルマータ、複縦線の順に書く。

<> 「ミヨシアクセント (Swell)」  未サポート 順序はアクセントと同じ。

10. 装飾音、異形音符 (P. 39~P. 44)

No.31 短前打音と長前打音、後打音 ※P145~146 ビースコアでは、装飾音の連桁表示はできない。斜め線付きが短打音。斜め線なしが長打音。

装飾音は集合音符にできない。

長打音 長打音に分別記号が必要。

e 長打音 f 短打音

No.32 トリル ※P147~149

⋮⋮⋮タイ (非T)

⋮⋮⋮1小節繰り返し+タイ (非T)
1小節繰り返しのトリルが含まれるが、タイは含まれない

4個以上の音符についているトリルは、最初の音符の前に
⋮⋮⋮、最後の音符のあとに⋮⋮ (非T)

No.33 ターン

※P150~153

No.34 モルデント

※P153~156

a 

b 

c 

d 

e 

1 1. 分割音符とトレモロ (P. 76~P. 78)

※P173~174


No.36 分割


a 

b 

No.37 トレモロ

※P175~176

a 

b 

1 2. 五線譜表における繰り返し及び省略法 (P. 51~P. 54)

No.38 リピート ※P196~199

a

b

c

d

e

f

mf リピート開始 ♩ ♩ a tempo ♩ ♩ mf . . .

No.39 「一番カッコ」 「二番カッコ」

a

b

c

d

スタッカート連続は不可。一番カッコの前で切る。

2小節休符は ♩ ♩、3小節休符は ♩ ♩ ♩、4小節休符以上は ♩ 小節数 ♩

一番カッコ ♩ ♩ a tempo ♩ ♩ . . .

ビースコアでは、2小節休符は ♩ ♩、3小節休符は ♩ ♩ ♩と、間に小節線を入れ、小節線は非出力(非0)にする。

No.40 その他の諸記号 (D. C. D. S. Fine) ※P216~219

a

1. 2. Fine

D. C.

b

to D. S.

Coda

c

Fine

Fine

Fine

dsalfine

D. S. al Fine

フルスペルで書く

練習問題

Andantino ♩. = 56

1小節目のセーニヨを表示しない (V4.96)


No.41

Fine


リピート終了、終止線、マスあけ、ヨ Fine ヨの順

p *p* *p* *p* D. S.

同じ演奏が2小節くり返されるとき

 **丸々コピー** (アダージョ用語) コピー元の臨時記号、指記号、松葉などの記号がコピー先にも記されている。小節間のタイも含まれる。

非Tにする

 **通常のコピー** 2回目に、ナチュラルがない、指記号がない等、まったく同じではないが演奏が同じとき。小節間のタイは含まれない。

1 3. 点字楽譜としての繰り返し及び省略法 (P. 44~P. 51)

※P114~124

(1) レ下がりによる繰り返し法

No.42 小節内

カナの「れ」 ⠠ 1 2 4 5 の点を、⠠ 2 3 5 6 の点に下げた点字を「レ下がり」と呼ぶ。

Examples a through k illustrate various musical notation techniques:

- a**: Four measures of eighth notes in 4/4 time, with the last three measures boxed in red.
- b**: Two measures of eighth notes in 3/4 time, with the second measure boxed in red.
- c**: Four measures of eighth notes in 6/8 time, with the second and fourth measures boxed in red.
- d**: Four measures of eighth notes in 3/4 time.
- e**: Four measures of eighth notes in 6/8 time, with the last two measures boxed in red.
- f**: Four measures of eighth notes in 6/8 time, with the second, third, and fourth measures boxed in red. Text: スタッカートは単独にする (Staccato is done separately).
- g**: Four measures of eighth notes in 4/4 time, with the last two measures boxed in red. Includes a circled 'C' and a blue arrow pointing to a note with the text 省略しない (Do not omit).
- h**: Four measures of eighth notes in 4/4 time, with the last two measures boxed in red.
- i**: Four measures of eighth notes in 4/4 time, with the last two measures boxed in red. Includes a circled 'C' and a red arrow pointing to a note with the text フレーズスラー開始 フレーズスラー終了 (Phrase slur start phrase slur end).
- j**: Four measures of eighth notes in 4/4 time, with the last two measures boxed in red. Includes a circled 'C' and a red arrow pointing to a note with the text タイ ⠠ タイ ⠠ タイ ⠠ (Tie).
- k**: Four measures of eighth notes in 4/4 time, with the last two measures boxed in red. Includes a circled 'C' and a red arrow pointing to a note with the text 表示が変。長いスラーがかかる (V4. 96) (Display is changed. Long slur is applied).

第5音列 丸々コピー (臨時記号がコピー先にもあるので) ← 非T

No.43 小節全部

a 

b 

c 

d 

e 

f 

g 

h 

直前の小節を3回繰り返す(3回以上から数字で表す)

フレーズスラー開始

直前の小節を3回繰り返す

フレーズスラー終了

スラー

スラー

スラー

P 第5音列 レ下がり

- ・小節の一部をレ下がりにする場合、レ下がりが行頭になってしまうときは使わない。
- ・小節全体のレ下がり行頭でも使ってよい。

丸々コピーに cr. は付加できない。全て書く。

音列+丸々コピーは特例で可。ほかの記号はすべて不可。

(2) 数字による繰り返し法

a, b はアダージョでは繰り返しを使わない。

a

No. 44

b

c

d

e

フレーズスラー開始

フレーズスラー終了

☆「数字による繰り返し法」は、小節番号、練習番号等で区切って段落とした時、その段落の中でないと使えません。

(3) 小節番号による繰り返し法

小節番号は、一段譜の場合、段の最初の小節にのみ行頭から2マス空けて書きます。段の途中の行は行頭から楽譜を書きます。不完全小節で始まる時は最初の小節番号は0です。

段は、通常は曲の小さな切れ目(フレーズ)の単位で区切ります。1つの段が複数行になり、1ページに2, 3段が入るようになるのが理想です。

段の切れ目がページをまたがってしまうときは、できるだけ小節の切れ目で次のページに移り、ページの最初の小節には小節番号を入れます。その後の段の切れ目がずれることはなく、そのフレーズが終わったら段を区切ります。

点訳を始める前に、曲全体を見渡して、どこで段を区切るかまず決めますが、改ページの位置などで変更するほうが良いこともあります。

2~5 小節目=10~13 小節目だが、アダージョでは現在の位置からたどれない小節への移動は行わない。

No.45

1 2 3 4 5

6 7 8 9

10 11 12 13

14 15 16 17

小節のくりかえし

- 直前の小節をA回繰り返す
- ~~A小節戻ってそこからB小節繰り返す~~
- A小節戻って繰り返す
- 第A小節から第B小節までを繰り返す
- 第A小節のみを繰り返す
- A小節休む

小節・回数
Aの数
Bの数

段の始めの小節に戻るなら OK

アダージョでは使わない

入力 キャンセル

練習問題

いろいろな繰返し方法を使って

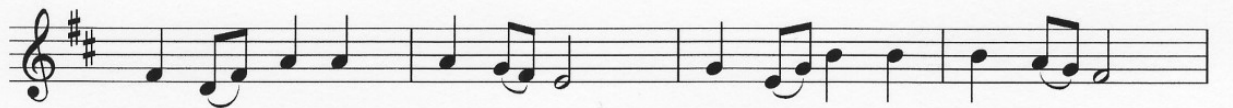
No.46

3小節戻って丸々コピー (臨時記号があるため。以後同様)

4小節戻って丸々コピー

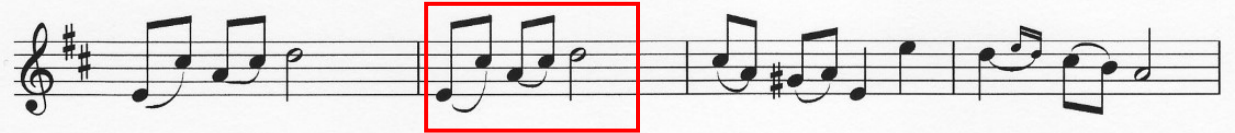


3 小節休み

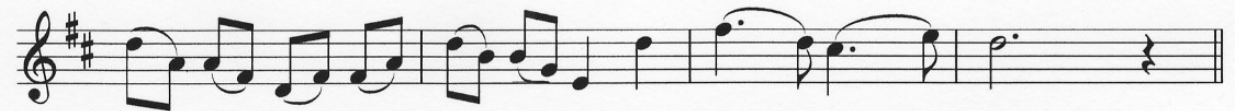
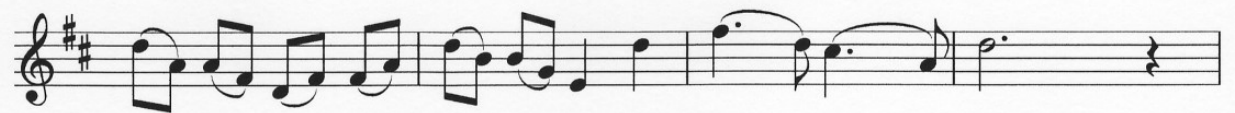




☺☺☺ 3 小節戻って丸々コピー



☺☺☺ 4 小節戻って丸々コピー



2020.9.18 和音の方向指示を追記
 2020.9.29 スラーの数修正
 2020.10.9 注意書き変更

1 4. 和音 (P. 59)

(1) 音程法

※P. 95~



本問題集では、明示されているところ以外は、和音は下から書いてください。(音部記号に従わない)


a

No.47 

b 

c 
 d 
 e 

f 
 g 

a 
 b 

c 

ラ、スラー(非 T)、3度、
スラー、レ、8度

d 

e 

タイ×2 タイ×2 タイ×3 タイ×1
 スラー×2 スラー×2 スラー×1 単音のタイ

8度連続に限り、基準音の臨時記号は省略中の従音にもつくことになる。連続開始・終了の従音の臨時記号は書く。

このbは表示できていない (V4. 96) →  → bが付いているので連続可能。

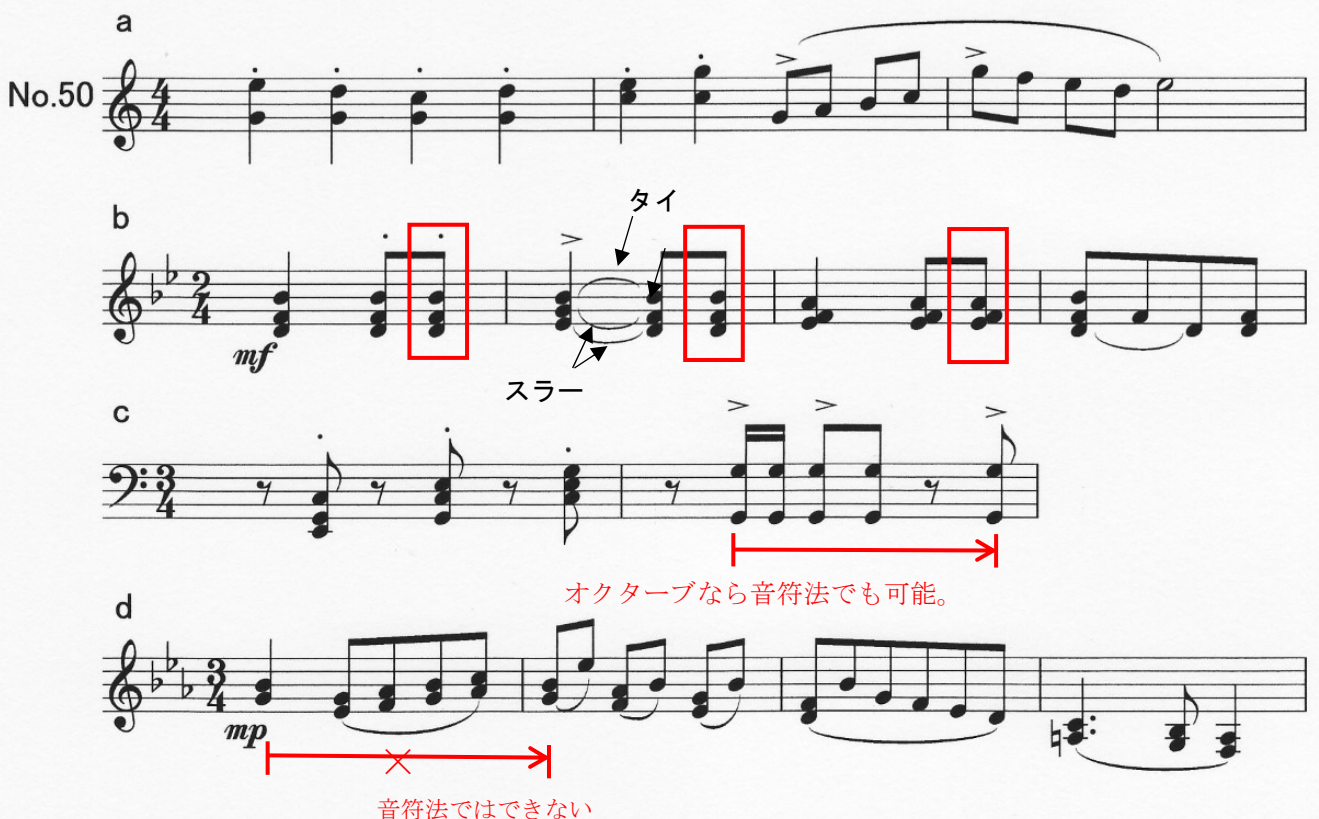
和音連続



bは、もし和音を上から書く場合なら、#のところ、またはその前で3度連続を止め、改めて3度連続を開始する。

(2) 音符法 I でやってみましょう。

No. 50



タイ

スラー

オクターブなら音符法でも可能。

音符法ではできない

(3) 部分け・内分け法

※P. 108

★臨時記号が最初の声部にないとき、後から臨時記号がついていることがわかる場合がある。他の声部の臨時記号を点訳者が補う「5の点+臨時記号」が必要になる。

No.51

a

b

c

d

e

既出なので5の点bは不要

5の点#が必要

それぞれの声部に通常のアルペッジオを書く

No.52

a

b

c

d

e

部分け法で原本にない休符を補って書く場合は、「5の点+休符」とする。

5の点は点訳者が補った記号であることを意味する。

(4) ステム ※P. 106

No.53

a

b

15. その他の諸記号

a グリッサンド

No.54

b 楽譜のかっこ $\begin{matrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{matrix} \sim \begin{matrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{matrix}$

カッコ

?

×

([L [()]] 7

キャンセル

スラーにカッコがついているときは、スラーのみをカッコで囲む。

★ 楽譜中のカッコ ($\begin{matrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{matrix} \sim \begin{matrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{matrix}$) と、文章中のカッコ ($\begin{matrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{matrix} \sim \begin{matrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{matrix}$) は異なるので注意。

Lungi dal caro bene

いとしい女から遠く離れて

Andante

Giuseppe Sarti
1729~1802

この点訳は言語を「外国語」とし、日本語はカッコ (⠠～⠡) で囲んでいる。

英語の大文字は ⠠ だが、欧州言語では ⠠

⠠ の大文字は、ベースコアでは未サポート。

点訳例 (凸面)

言語が英語のときのかなの入力：

メニューの一般記号→かなの **かな開始** (⠠⠠) と **かな終了** (⠠⠡) で囲む。F8 で入力すると毎回前後につくので注意。

言語が日本語のときのアルファベット入力：

F9 で入力すると毎回外国語引用符が前後につくので注意。略称や文字には**外文字** (メニューの一般記号→アルファベットの **外文字**)、語句や文には**外国語引用符**を使う。

17. ピアノ譜 (凸面)

(記譜形式はライン・オーバー・ライン形式、和音は音程法による)

楽曲を適宜に区分し、右手パート、左手パートの順に記します。

各点訳頁の初めは、右手記号を省略し、数符を付けた小節番号を記します。

アダージョでは通常使わない

右手記号 :::

右手の略記号 :::

左手記号 :::

左手の略記号 :::

「タイトルの書き方」に即して必要事項を記した後

1. 1マス目から小節番号、1マス空けて、

右手パートを記す :::: □ :::: ::::

2行以上にわたる時、行替えは3マス目から □□ :::: ::::

2. 1マス目から左手記号、続けて左手パート楽譜を記す :::: :::: ::::

2行以上にわたる時、行替えは3マス目から □□ :::: ::::

3. 1, 2を繰り返す。

詳しくは、「アダージョのピアノ譜の書き方」参照。

Menuet

11. *p*

mf

点訳例 (凸面)

11. のドット「.」は翻訳できないので非翻訳にしてください。(拍子の点字とかぶる)

Menuet

11.

The musical score consists of five systems of piano and bass staves. The key signature is three flats (B-flat, E-flat, A-flat) and the time signature is 3/4. The piece begins with a piano (*p*) dynamic. The first system includes fingerings 2, 1, 2, 3, and a trill (*tr*). The second system is marked *mf* and features a triplet of eighth notes. The third system starts with *mf* and ends with *mp*. The fourth system is marked *p*. The fifth system includes dynamics *mf*, *f*, and *mf*. The score concludes with a repeat sign and a fermata.

続けて書くときは1マス空けて ♩ ~ ♩ (アルファベット中のかな開始終了) で囲む

悲しいワルツ

(The Sad Waltz)

カッコ ♩ ~ ♩ の中に

外国語引用符

Sadly, not fast

おそくなく

♩ = 106 ~ 108

なかだ よしなお

The musical score consists of five systems of piano and bass staves. The key signature has one flat (B-flat). The tempo is marked 'Sadly, not fast' with a quarter note equal to 106-108 beats. The score includes various dynamics: *p* (piano), *mp* (mezzo-piano), *mf* (mezzo-forte), and *pp* (pianissimo). Performance markings include *Ped.* (pedal) and ** Ped.* (sustained pedal). Fingerings are indicated by numbers 1-5. The score concludes with a *pp* dynamic and a *Ped.* marking. Red boxes highlight specific chord changes in the final system, and a red circle highlights a specific chord in the bass staff.

poco rit. a tempo

First system of the musical score. The right hand plays a melodic line with slurs and accents. The left hand has a bass line with a 'Ped.' marking and a '*' symbol. A dynamic marking 'p' is present.

Second system of the musical score. The right hand continues the melodic line. The left hand has a bass line with a 'Ped.' marking and a '*' symbol. A dynamic marking 'p' is present. A red box highlights a pair of notes in the left hand, with a blue arrow pointing to it.

3 拍目を繰り返しにするなら、スタaccato連続はここで止める

Third system of the musical score. The right hand continues the melodic line. The left hand has a bass line with a 'Ped.' marking and a '*' symbol. A dynamic marking 'mf' is present. A red box highlights a group of notes in the left hand.

Fourth system of the musical score. The right hand continues the melodic line. The left hand has a bass line with a 'Ped.' marking and a '*' symbol. A dynamic marking 'mf' is present. A red box highlights a group of notes in the left hand. The text '3 回繰り返し' is written below the system.

Fifth system of the musical score. The right hand continues the melodic line. The left hand has a bass line with a 'Ped.' marking and a '*' symbol. Dynamic markings 'mf', 'mp', 'dim.', and 'pp' are present. A red box highlights a group of notes in the left hand.

楽譜点訳の会「星」

2005年4月1日初版